

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第19回津市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成30年1月29日(月) 午後6時00分から午後8時30分まで
3 開催場所	津市役所 4階 庁議室
4 出席した者の氏名	<p>(津市子ども・子育て会議委員)</p> <p>駒田聡子、田口鉄久、田中利美、田中嘉久、辻千晶、内藤直樹 仲尾弘文、西原和美、橋川恵介、堀本浩史、森崇、柳瀬幸子 山川三重子</p> <p>(事務局)</p> <p>健康福祉部長 田村学 健康福祉部次長 福森稔 子育て推進課長 鎌田光昭 子育て推進課保育所担当副参事 橋爪祐子 子育て推進課調整・子育て推進担当主幹 上川幸則 子育て推進課保育担当主幹 小林泰子 子育て推進課子育て推進担当副主幹 福島奈津 子育て推進課子育て推進担当 米本孝子 こども支援課長 豊濱博幸 健康づくり課保健指導担当副参事 栗本真弓 教育長 倉田幸則 教育委員会事務局学校教育・人権教育担当参事 森昌彦 教育委員会事務局教育推進担当参事 田中寛 教育委員会事務局学校教育課幼児教育課程担当副参事 松谷富美子 教育委員会事務局生涯学習課青少年担当副参事 小島広之</p>
5 内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 特定教育・保育施設等の確認について</p> <p>(2) (仮称)芸濃こども園及び周辺教育児童施設の整備について</p> <p>3 その他</p>
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	<p>健康福祉部 子育て推進課 子育て推進担当</p> <p>電話番号 (059) 229-3390</p> <p>E-mail 229-3167@city.tsu.lg.jp</p>

第19回津市子ども・子育て会議 議事概要

1 開会

- ◆事務局（上川）が開会宣言
- ◆事務局（上川）が会議の成立を報告
 - ・出席者13名（延着3名）、欠席者6名、津市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により成立

2 議事

- ◆田口会長が会議の公開を報告
 - ・津市情報公開条例第22条及び第23条の規定に基づき、公開審議とする
- ◆田口会長が資料の確認
- ◆田口会長が本日の会議の進め方を説明

(1) 特定教育・保育施設等の確認について

- ◆事務局（鎌田）が資料説明【資料1】

（田中嘉久委員）

0歳から2歳の枠は確保できるが、保育士不足により認可定員を満たすことが出来ない現状である。今年も新年度の準備が始まっているが、職員が足りないということは口癖になっている状況である。養成校の学生が、この地域で就職を希望する方がどれだけ増えるかによって今後の受け入れ枠も変わってくると感じている。

（駒田副会長）

3号認定子どもの数が確保できないということは、これだけの家庭の保護者が働けないということになってしまう。数としては少なく思えても、社会の損失としては大きいものだと感じる。家族にとってみれば、働けないということの意味はすごく重い。保育士が定着するような、市としての制度などはないのか。また、1号認定子どもの数が減少していることに問題点はないのか。

（事務局 鎌田）

1号認定子どもの利用者は、平成29年5月1日現在、公立・私立を含めて幼稚園の利用者は、2,911名という状況である。28年度は3,090名、27年度は3,155名と、少しずつ減少している。1号認定子どもの利用定員については、大きな余剰があることから、少しずつ実態に即したかたちに修正していく。また平成30年度に向けては、認定こども園の設置により、実態に合った設定にすることにより、数字上、実態に近いかたちで整理が進んできている。

（田口会長）

保育士不足などの問題については、国や県でも深刻に捉えており、保育に向かっていく力を

蓄えるとともに、専門性を高め、さらには保育に充実感を持って取り組んでもらえるような、初年度や若い先生方への研修が相当計画され、実施されるようになってきている。また、潜在保育士に向けての研修や呼びかけなども行われている。さらには、保育に向かっていく学生を増やしていきたいということで、奨学金を充実させる取り組みも行われたり、子育て支援員の資格を取ってもらうための講習会等も行われている。しかし、保育士不足の解消には繋がっていないため、いろんな苦勞が各園にある。

(駒田副会長)

潜在保育士さんの研修を毎年行わせていただいているが、参加者が5、6名と少ない。潜在保育士も活かしていきたいが、市として方策は考えているのか。

(事務局 鎌田)

津市として、県社協が受託している、保育士・保育所支援センター事業の検討メンバーに加えてもらっており、いろんな研修の企画、事業の実施の検討の中で参画している。潜在保育士の働き方の実態として、扶養の範囲内であったり、子育てに支障のない時間帯での就労であったり、子育てと両立を望む声が多く寄せられている。そういった働き方によって、どのように現場で活かしていけるかを考えていく必要があると思う。望ましい保育環境については、現場の声も踏まえながら擦り合わせていくことが課題であると実感している。

(山川委員)

保護者の中にも免許を持っている方がたくさんいるが、子育てと両立していきたいという方が多い。実習生に対しても、子どもと一緒に生活することの楽しさや素晴らしさを伝えていくが、いざ就職となると悩んでいるという声を聞く。実習生に仕事の素晴らしさを伝えていくことも、自分たちの大事な務めだと思う。

(田中利美委員)

園での実習生はだんだん減っているのか。

(山川委員)

毎年ほぼ同じ人数が実習にきている。

(田中利美委員)

全員が保育士や幼稚園教諭として就職するわけではないのか。

(山川委員)

免許や資格は取るけど、就職は別の方向で考えている方もいる。

(堀本委員)

保育士の妻から、今の若い世代の保育士は、子どもと関わることはすごく楽しいと感じるが、子どもの命を預かるという責任を重く感じており、その重みに押しつぶされている方が多いと聞いている。若い保育士が辞めていく原因はそこにあるのではないか。保育士である以上、子どもの命を預かるという責任があるが、研修や先輩の指導によって、その気持ちを少しでも軽減していくことが必要ではないか。

(駒田副会長)

幼稚園には養護教諭が配置されているところもあるが、保育所には配置されていない。命を預かるという意味では、養護教諭がいないということは、保健に関することはすべて保育士が対応しなければならない。

(堀本委員)

保育士には、これまで以上に看護師的な役割を求められているのが事実だが、看護師も不足している中で、保育園で看護師を雇わなければならないということになれば、雇えない保育園は運営できなくなるのではないか。

(辻千晶委員)

自分の子ども一人を見ることでも大変なのに、たくさんの子どもの見る担任の先生はすごく負担を感じているのではないか。自分が子どもを預けていた幼稚園では、担任以外に補助の保育士がいたので安心であったし、途中で担任が変わったことが何回かあったが、子どもも順応することが出来た。知り合いにも専業主婦で元保育士の方が何人かいるが、自分の子どもを犠牲にしてまで働くことはできない、負担が大きいという声を聞いている。

(田口会長)

保育士の勤務条件については、国の方でも賃金ベースを上げていく動きをとっており、とりわけ中堅に近い方の手厚い賃金配分も工夫している。保育士不足の解消については、子どもとの関わりに情熱を持てる人たちの願いが実現できるような働きかけをしていかなければならないと思う。若い人が増えることは、私たち幼児教育・保育者を養成する立場からも願っているが、そういう状況が出来上がっていない。保育の仕事の意義の大きさや、子どもを育てることの嬉しさを伝えていくことが私たちの立場として重要なことだと思う。市の方でも、保育士が充実して保育ができるような取り組み、支援をお願いしたいと思う。

(橋川委員)

勤務条件や賃金の話もあるが、幼稚園や保育園の先生の評価や、先生方のありがたみを感じるということも大事なのではないかと感じる。

(2) (仮称) 芸濃こども園及び周辺教育児童施設の整備について

◆事務局（鎌田）が資料説明【資料2】

(森委員)

平成32年4月の開園後に園庭と駐車場の整備が始まるとの説明であったが、すべて完成するのは平成32年度末ということか。

(事務局 鎌田)

駐車場と園庭を含め、すべての工事が終わるのは、平成32年度末と想定している。

(森委員)

その間、園庭として使える部分はあるのか。

(事務局 鎌田)

工事期間中は園庭が制限されることから、芸濃小学校と相談の上、校庭の一面を園庭として利用させてもらう予定である。

(内藤委員)

芸濃KIDSの利用者が増えており、現行の園舎では不具合が出ている。こども園の整備とともに芸濃KIDSの整備が行われれば、一年でも早く新園舎を活用することことが出来ると思うが、同時に二つの工事を行うことは困難である。何か少しでもうまく運営できる方法はないのだろうか。

(堀本委員)

現行の1単位というのは40名で、2単位というのは80名程度を見込んでいるのか。

(事務局 小島)

現在のスケジュールは、こども園園舎の完成後に、現行の芸濃保育園の場所に芸濃KIDSの園舎を新築する予定で、これが最短の計画である。利用者には不便をかけるが、完成までの運営方法については芸濃KIDS側としっかり相談しながら進めていきたい。また、一つの支援の単位は40人前後と考えており、3つの単位に分けて運営していく想定である。

(西原委員)

芸濃KIDSでも待機児童になってしまうのではないかという心配がある。

(事務局 小島)

来年度の利用児童数については本年度並みで、来年度は対応できそうと聞いている。現在も本体及び小学校の図書室の2か所をうまく活用しながら運営をしてもらっている。利用希望が多い場合でも、断るということはあるので、周辺の施設を確保するなど、受け入れるための方策を考え、新しい施設が完成するまでの支援をしっかりとしていきたいと考えている。

(仲尾委員)

こども園になった時に定員が40人少なく設定されており、推移や児童数を踏まえて設定したとあるが、その根拠は。

(事務局 鎌田)

芸濃こども園の定員については、現状の利用実態を基に設定した。平成28年度のすべての利用者合計が216名、平成29年度は同様に220名である。これらの状況を踏まえ、現行の280名の定員設定に対して40名の減という結果になった。

(仲尾委員)

新しい園舎は、最大で何名が利用できる計算で作るのか。

(事務局 鎌田)

今資料を持ち合わせていないので、明確な返答はできませんが、240名の子どもを受け入れることのできるこども園を作っていく中で、一定の余裕を考慮に入れ、20%の弾力的な運用を視野に入れた部屋の面積を確保できるように考えている。ただし、具体的な設計は9月あるいは10月頃までかかる。設計図を作っていく過程で面積の変更などは出てくると想定している。

(仲尾委員)

保育園の保護者としては、こども園になることで、送迎がこれまでより遠距離になったり、送迎時間が出勤時間と重なったり、心配になることが多い。送迎バスがあると本当に助かるので、今後何か考えてほしい。

(柳瀬委員)

これからこども園が増えてくると思うが、設計の段階で、地域の子育て支援専用の部屋を検討して行ってほしい。これまでは、保育園の中の一教室を利用してる場合が多い。

(事務局 鎌田)

子育て支援事業は、認定こども園において、必須の事業となっている。津みどりの森こども園も、子育て支援専用の部屋は設計して、現在建築している。芸濃こども園の場合は、1階の部分で考えていく。

3 その他

◆事務局（鎌田）が津市子ども・子育て会議公募委員の選考について説明【資料その他】

(各委員からの意見なし)

◆事務局（田村）が委員に対して御礼の挨拶

(田口会長)

本日の会議は、最終の会議として相応しく、保育の本幹の問題に関する意見をたくさん出していただいた。津市における子ども・子育て支援が充実していくことを願って、本日の会議を終了する。